星 亮一×宗像文男（東京都市大学工学部教授）

大学院大学は復興に絶対必要だ

学は、復興支援を考えると社会科学の研究者も必要でしょう。当然、海外からも研究者を招きたい。

宗像　復興を前提に考えれば、ただ施設をつくるだけでなく、経済を循環させる仕組みを構築しなければならない。郡山やいわきには多くの企業が進出しているが、それらが利益を出さないと復興にはつながらない。

じゃあ、利益を出すには最先端技術を生み出す大学院大学が必要だし、国から必要な予算を取ってくるには地元に受け皿も必要になる。そういうビジネスモデルを確立しないと、単に大学院大学だけをつくっても経済の循環は生まれません。

地元産業実態に合わせた研究科を設置せよ

星　こうしたスタイルは、世界的には米・マサチューセッツ工科大学がリードしているが、日本では東京工大が最近、教授を集めるなどして力を入れようとしているようです。福島県の大学院大学もこの潮流に乗って、復興に寄与していってほしいものです。

宗像　いま、文科省は「大学改革方針」を打ち出しており、地域再生の核となる大学づくりを地方に呼び掛けています。具体的には、人材育成機能を備えるとともに、地域社会との連携によって雇用創出や課題解決に貢献していくため、平成25年度から逐次実施するものです。

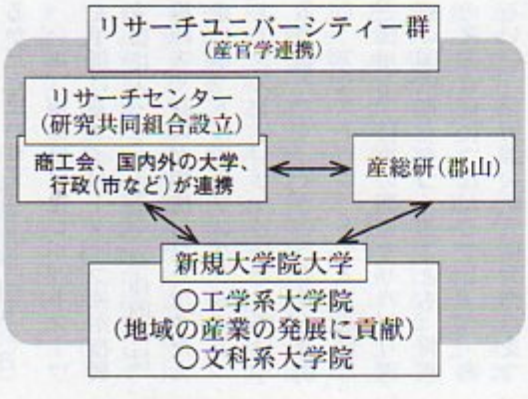
急速な少子化で大学の統廃合の必要性が叫ばれているのは周知の通りです。入学者が定員に届かず、経営的に厳しい大学も多い。こうした事態は学生の質にもかかわる問題で、卒業しても社会の即戦力を担えるかどうか疑わしい学生も残念ながら少なくないのです。そうなると、そういう学生に必要な教育を施すには、大学の統廃合を進めると同時に、目的別に集約化を図ることは避けられない、と。

星　そういう意味では、既存の大学はそれぞれ特徴的な研究分野を備えているが、半面、新しいことを始めるのは難しいのではないか。

宗像　例えば、講座制を解体しようとしたら何が起きたかというと、バラバラになりすぎて本当に教えなければならない基礎学問がおろそかになってしまった。そうなると、学生に基礎が備わっていないのに、先生が自分のやりたい講義を行う現象が起きる。必然的に〝流行りもの〟には予算が付きやすいので、そういう分野に走りがちな先生が増える。すなわち、教育の一貫性が失われ、学生の教育につながっているかは二の次になってしまうのです。

もちろん、基礎学問を大事にしながら新しい分野に挑戦する先生もいるが、中には予算が付く・付かないを重視して、教育に不熱心な先生も少なくないのです。

星　そうした状況を打破するためには、若手の先生を集める一方、新しい分野に挑戦する意欲を持ったベテランの先生も招聘しないとダメでしょう。そうなると、既存の大学ではやはり難しいですね。

宗像　大学の先生というのは、自分がいままでやってきたことを、まるっきり新しく変えるのは好まないし不得手です。長年、教科書が変わらない先生もいるくらいですから。

星　県内には福島大学を筆頭に、日大工学部やいわき明星大学、会津